

～創刊100号スペシャル～

としょかんNEWS 第100号



2015年7月13日
湘北短期大学図書館

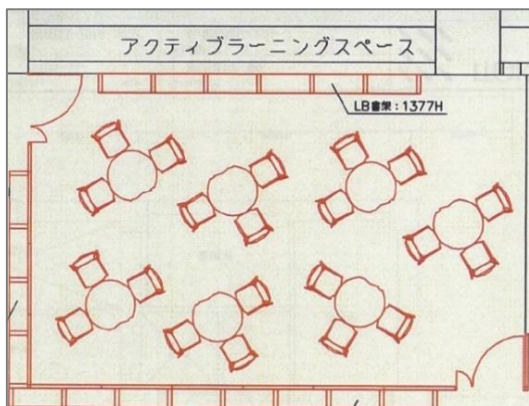
図書館改装のお知らせ

●「アクティブラーニングスペース」を新設します！

湘北短期大学図書館では、2009年に学生の“主体的な学習活動”を支援する場として「オープンスペース」を設置しました。ここでは、学生たちが話し合いながら、図書館の多様な資料を活用して情報の編集・発信を行っています。しかし、オープンスペースは、常時さまざまな目的で多くの学生が集うため、授業・ゼミ等のグループ学習では「周りの声が気になって集中できない」という意見も多く寄せられていました。そこで、2015年9月にパーティションで区切られた個室風のグループ学習室「アクティブラーニングスペース」を設置することとなりました。

「アクティブラーニングスペース」は、図書館2階の参考図書コーナーに設置されます。定員は約21名（イス3脚×7テーブル）、事前にお申し込みいただくと授業・ゼミ等のグループでの貸切利用ができます。また、予約が入っていない時間帯は、どなたでも自由に利用することができます。なお、これまで参考図書コーナーに配架していた図書は、アクティブラーニングスペースのパーティション沿いの書架に並ぶ予定です。貸切利用を希望される方は、図書館ITコンシェルジュ（itcon@shohoku.ac.jp）までお問い合わせください。

<レイアウト例>



<完成イメージ>



※アクティブ・ラーニング・・・教員が講義形式で一方向的に教えるのではなく、学生が自ら進んで、お互いに協力しながら学ぶ指導・学習方法

● デジタル・タッチボードが入りました！

新しくデジタル・タッチボード<スラットボード>が図書館に入りました。これまでプラズマディスプレイは、DVDプレイヤーやPCをつないで画面に表示させるために使用していましたが、新しく入ったデジタル・タッチボードは、従来の機能に加えて、<電子黒板>として使用できます。ホワイトボードのように画面に直接文字が書けるだけでなく、PCにつないで映し出した画面をタッチパネルで操作したり、その上に文字や絵を書いてファイル保存・プリントすることも可能です。

アクティブラーニングスペースやオープンスペースで自由に使用できますので、ぜひご活用ください。



われわれはこの男を知っている！いや！このまなざしとこの顔の若さを知っている！…と、知らない人もいるでしょうが、今回は『荒木飛呂彦の漫画術』（集英社新書）を紹介します。

荒木飛呂彦と言えば、『ジョジョの奇妙な冒険』の作者です。ジョジョを読んだことが無い人は人生を半分損してます。読んだ方が良いです。今すぐ。好みは人それぞれですが、非常にエネルギーにあふれる奇妙な漫画であることは確かです。

さて、この本。作者曰く、「王道漫画の描き方」について解説するハウツー本だと言う。あれ？ジョジョって王道漫画だっけ？…と突っ込みつつ読み進めると、これは人生におけるハウツー本なのかな、と勉強させられるでしょう。ジョジョだけでなく漫画や小説、アニメやドラマなど、物語を紡ぐ人はもちろん、すべての人に対する道しるべとなる内容となっています。就職活動で行き詰っている人や、履歴書の自己PRで迷っている人にもぜひ読んで欲しいです。

作者がデビューした頃の頃、編集者は持ち込んだ原稿の1コマ目を見ただけで袋にしまってしまうという。読んでもらえない。では、世の中のヒットしている作品と自分の作

品はどこが違うのか？そこから、ヒットしている漫画を観察し、王道漫画とはどのように作られているのか丁寧に分析しています。最初の1ページの重要性。1コマ目は5W1H。漫画の構成要素を「キャラクター」「ストーリー」「世界観」「テーマ」の4つと定義し、作者自身の作品や他の漫画や映画を例に、丁寧に解説をしています。日常の起承転結を体で覚える、自分と違う意見に興味を持つ、など、漫画を描くことと関係なく、人生にプラスとなるような、なるほど！と思わせるポイントがたくさん出てきます。

ジョジョが面白いのは、努力して作り上げてきた作品だからこそ、魅力的なのではないでしょうか。世の中を観察し、分析し、作品を更に磨き上げていく。またこれを継続していける力、これが作者の築いてきた「黄金の道」と言えるでしょう。「観察」「分析」「継続」はどんな場面でも困難を乗り越えるために必要となる力だと思います。

ちなみに、荒木先生は驚くほど見た目が若いです。むしろ年々若返っています。ジョジョに出て来た波紋の使い手であるとか石仮面をかぶった吸血鬼であるとの説も…。興味のある方はぜひ「荒木飛呂彦」「不老不死」で検索してみてください。

【連載】リレーエッセイ(番外編) A GATEWAY TO LIFE 生活フロニュース学科 佐藤 知条

リレーエッセイの登場は2回目となります。この欄ではおおすすめの本を紹介するのが通例となっているようですが、前回(82号)は一切本を薦めませんでしたので再登場しました。

前期の授業も終わりに近づき、レポートを課されている学生のみなさんも多いのではないのでしょうか。そこで、レポート(論文)の書き方の参考になる本として、北村薫『六の宮の姫君』(創元推理文庫)を紹介합니다。

本書は主人公の「私」が、芥川龍之介が自作に寄せたコメントの「謎」を解くというミステリーです。卒論を書くことになった大学4年生の「私」は、芥川の言葉の謎を知りたいという気持ちに突き動かされ、さまざまな資料を調べ、それらの記述から芥川と彼を取り巻く人々の心を推測していきます。

小説としての筋が魅力的であることはも

ちろんですが(芥川の作品に詳しくなくても問題ありません)、「私」とともに謎を解くなかで読者は、資料を読み、資料をもとに論理的に推測し、新しい発見をするというレポートの書き方や、学ぶことの意味とやりがいなどを自然と感じ取ることができるでしょう。私も学生時代に本書に出会ったことが、研究者の道を選ぶきっかけの一つになりました。

殺人事件を解決するだけがミステリーではありません。私たちの日常のなかにはたくさんの謎があり、人の心もまた謎に満ちています。そのことに気づかせてくれる本でもあります。

梅雨の時期だからこそ、最後の一節の鮮やかさも際立ち、読み手の心に迫ります。学生時代に、そしてこの時期に、はじめて出会うのがふさわしい一冊だと思います。

日英戦はば大英博物館の稀観本を戦利品にせよといひて笑ひめ

館長 野口 周一

本誌は本号をもって 100 号に達した。私の知人・鄭応洙教授(南ソウル大学)は、かつて『百花繚乱』や『百科事典』という言葉から分かるように、『100』という数字には『多い』という意味が隠されています」と説き起こされ、「韓国にはこの 100 という数字に、また別の意味があります。韓国では子どもが生まれて 100 日目になると、『100 日祝い』をする風習があります。栄養と医療の問題で嬰兒の死亡率が高かった時代に、100 日目を無事に迎えることはめでたいことでした。そこで、去る 100 日に感謝し、これから迎える新しい日々を祝ったのです」と、子どもが次の段階へステップアップする通過儀礼としての意味を記された。本誌 100 号の意義もそこにある。編集責任者の高橋可奈子氏の労を多としたい。

さて、先日「大英博物館展—100 のモノが語る世界の歴史」(於東京都美術館、4.18~6.28)が開催された。大英博物館で最も有名なモノの一つはロゼッタ・ストーンである。これは基本的に門外不出であろうが、その来歴を記しておきたい。フランス革命の末期、1798 年にナポレオンは敵国イギリスとインドの連絡を断つ目的でエジプトに遠征した。この遠征中に、アレクサンドリア東方のロゼッタ(アラビア語でラシード)で発見された(99 年)。上段に神聖文字、中段に民用文字、下段にギリシア文字の 3 種で書かれている。フランスのシャンポリオンは、このギリシア文字を手がかりに神聖文字の解読に成功した(『詳説世界史』山川出版社、2014 年)。その後、それがイギリスの手に渡った経緯については、本稿では割愛する。

表題の歌は五島茂のもので、松本剛著『略奪した文化—戦争と図書—』(岩波書店、1993 年)に教えられた。松本先生は大阪経済大学教授、図書館長を務められたことがあった。そのとき、少しでも図書館のことを知ろうとお考えになられ、「明治期社会主義者の図書館思想」、「アメリカ民主主義の生成と図書館設立運動」、「戦争と図書」等のテーマを設けて勉強された。先生は島根半島の民家がわずか 60 軒ほどの漁村に育っ

た。その集落の湾内にもアメリカ軍は機雷を投下していた。その機雷を最初に発見したのが先生であり、村人がその除去にあたったときに、不幸にも機雷が爆発、一瞬にして 16 名が犠牲になった。村人の「あの子があがなもんを見つけておらんかったら、うちのお父つあんも死なんかったのに」と言うような声が、先生の耳にも入ってきたとのことであった。わずか 9 歳の先生には、耐えがたい、余りにも重い非難であったことは想像に難くない。先生は「以来五〇年、私は戦争の問題を避けては思想や学問のことを考えられなくなりました」と記す。

先生は、日本が中国への侵略戦争を行っていた間に、日本は大量の図書を国立図書館、大学、研究所に持ち帰っていたこと、戦後はアメリカ軍が日本から公文書や図書をアメリカに持ち去っていたこと、占領下の中国と日本で大量の図書が焚書の厄にあっていったこと、以上 3 点を実証的に究明されたのであった。

すなわち、日本に即して述べると、日本は勝ち戦のときは図書や公文書、美術品の略奪者であり、敗戦国となると今度は被略奪者の立場に置かれた。それを踏まえると、表題の歌もよく理解できる。戦争に勝って相手国の文化財—稀観本とは手に入りにくい珍しい書物—を日本に持って帰れ、と声高に詠っているのである。

先生は「日本軍が中国の大学を焼き、図書を奪ったという事実が中国の文化にえぐりつけた傷痕も未来にわたってながくなく消えることはないだろう。焼いたものは金で返し、奪ったものは現物で返せば、それでもう罪は消えた、というようなものでないことは明らかである。戦争の残痕はそれほどまでに深いものであり、国は一時期の施政者の方針によって軽々に兵を外国へ出すようなことを計ってはならない」と述べられる(269 頁)。このご発言は現在の日本にとって時宜に合ったものであり、先生の館長としての姿勢に私たちは学ぶ必要がある。まずは、私が先生の爪の垢を煎じて飲まなければならない。

図書館スタッフの一押し～スタッフ全員に聞いてみました～



アン子のオススメ

～図書館はくミナのカタ～

図書館の2階部分がカラーゾーニングされたのは2009年4月。コンセプトはくミナのカタ。利用者である学生、教職員、卒業生のみならずの味方となってモノの見方を共に考えようという姿勢です。読みたい本が見つからない、調べたいことがわからなくて行き詰まった、そんな時にいつでも気軽に声をかけてほしい！パワー全開で待機しています。そして、声がかかると待つてましたとばかりに過剰に案内してしまい、反省…ということもしばしば(苦笑)鬱陶しくない距離感が大事ですね。そんなことを肝に銘じながら、わたしたちは、いつでもみなさんのカタです。



シバ子のオススメ

～何を读もうか迷ったら展示コーナーへ～

図書館のカウンター前、3階に上がる階段の横に展示コーナーが設けてあります。

並んだ本には、その本を紹介・おすすめするポップがついています。図書館サポーター「さぼーち倶楽部」が作成したポップを始め、選書ツアーに参加した学生が選んだポップが随時入れ替わっています。また、さる一ちのオススメ！コーナーも定期的にテーマを変え、展示しています。こちらもぜひご覧ください。

何を读もうか迷ったら展示コーナーをのぞいてみてはどうでしょう？いつもと違うジャンルの本に興味をわくかもしれませんね。



ウオ子のオススメ

～情報探索ツールを活用しよう！～

課題やレポートのために本を探するとき、どうしても必要な資料が見つかるのか…困ったことはありませんか？そんな方にはくパスファインダーとくブックリストをオススメします。

<http://www.shohoku.ac.jp/library/pathfinder.html>

くパスファインダーとは、テーマに関する資料や情報を探すための手順をまとめた情報探索ツールです。図書・雑誌・新聞・データベースなどさまざまな情報源から調べる方法が分かります。

くブックリストとは、テーマに関する図書のリストです。図書館ではカウンターでよく聞かれるテーマや授業の内容に関連する図書を集めたリストを作っています。こんなブックリストが欲しいといったリクエストも受け付けています！



さろZのオススメ

～解決のヒントは図書館のHPにあり！～

図書館のホームページには、情報探索ツールを始め、開館時間などの利用案内や、図書館の旬のニュースなど、様々なお役立ちコンテンツが掲載されています。

その中でもオススメしたいのが「教えて！ITコンシェルジュ」。

<http://www.shohoku.ac.jp/library/itcon.html>

「印刷の仕方が分からない」、「メールにファイルを添付したい」など、よく聞かれるPC操作のマニュアルがカテゴリー別にまとめてあります。困った時にはまずアクセス！解決のヒントが見つかるかもしれません。もちろん分からないことがあれば、ITコンシェルジュに気軽に聞いてくださいね！

～編集後記～

2005年に創刊した「としょかん NEWS」が今号で100号を迎えました。皆さまのご協力のおかげで、創刊から10年発行を続けることができました。お忙しい中エッセイに執筆して下さった教職員の皆さま、読者である図書館の利用者の皆さま、これまで支えてくれた図書館スタッフに、心より感謝申し上げます。冒頭でご案内しましたが、この夏、図書館には新たに「アクティブラーニングスペース」が設置されます。多様な資料・情報が集まる図書館という場を活かした新しい学習室として、是非ご利用ください。今後ともくミナのカタ図書館をよろしく願いいたします。(KT)